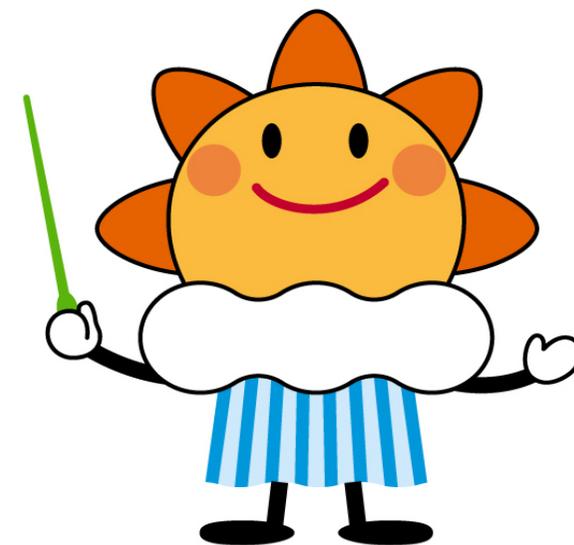


平成30年7月豪雨の状況について



気象庁マスコットキャラクター はれるん

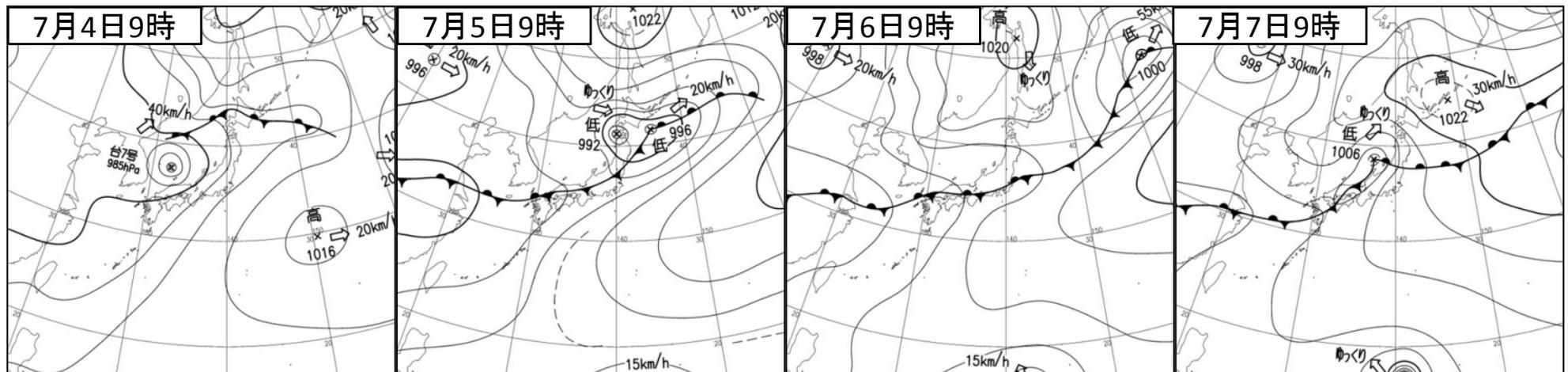
横浜地方気象台
平成30年8月23日（木）

「平成30年7月豪雨」の概要

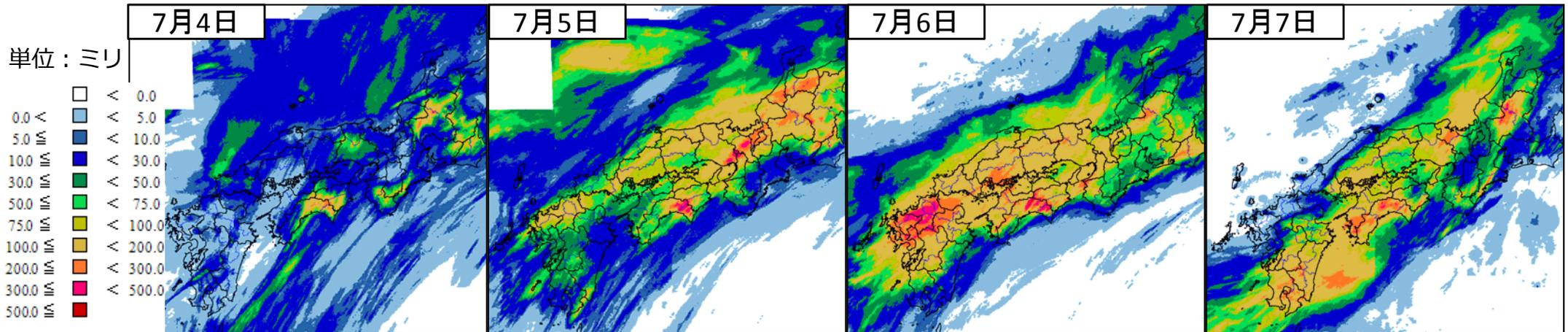
【概要】

- 6月29日に発生した台風第7号は、7月4日に日本海を北東に進み、15時で温帯低気圧に変わった。
- 台風第7号や台風から変わった温帯低気圧の通過後、本州付近に梅雨前線が停滞した。
- 梅雨前線は、暖かく湿った空気が継続して流れ込んだ影響で、活動が非常に活発となった。この状態が、7月5日頃から8日頃まで続いたため、西日本から東海地方を中心に記録的な大雨となった。

■天気図

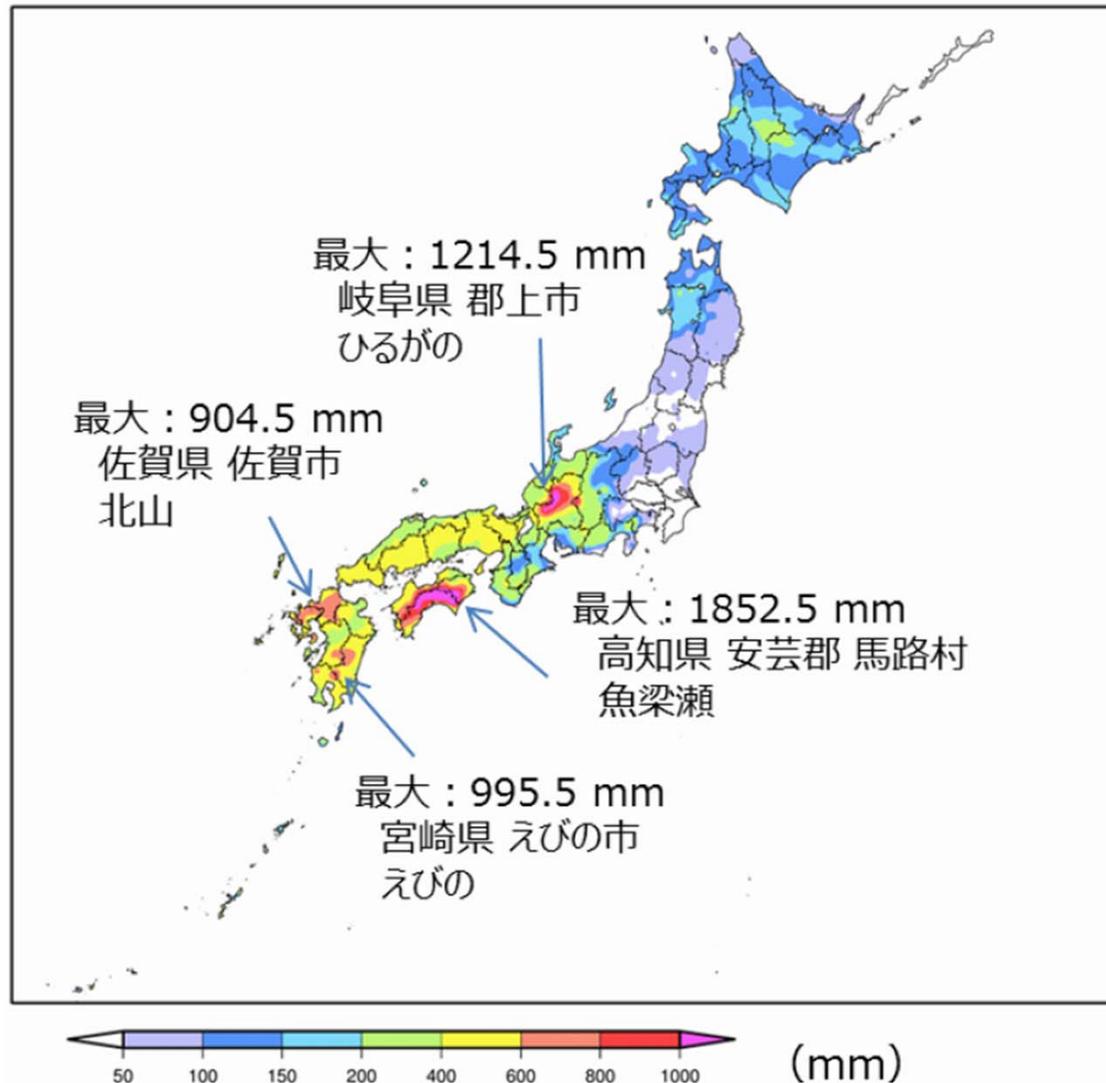


■日降水量（解析雨量） ※解析雨量とは、気象レーダーと、アメダス等の雨量計を組み合わせ、雨量分布を1km四方の細かさで解析したもの



「平成30年7月豪雨」の大雨の特徴

「平成30年7月豪雨」の総降水量をみると、広い範囲で大雨となり、四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えたところがあるなど、7月の月降水量平年値の2～4倍となる大雨となったところがあった。

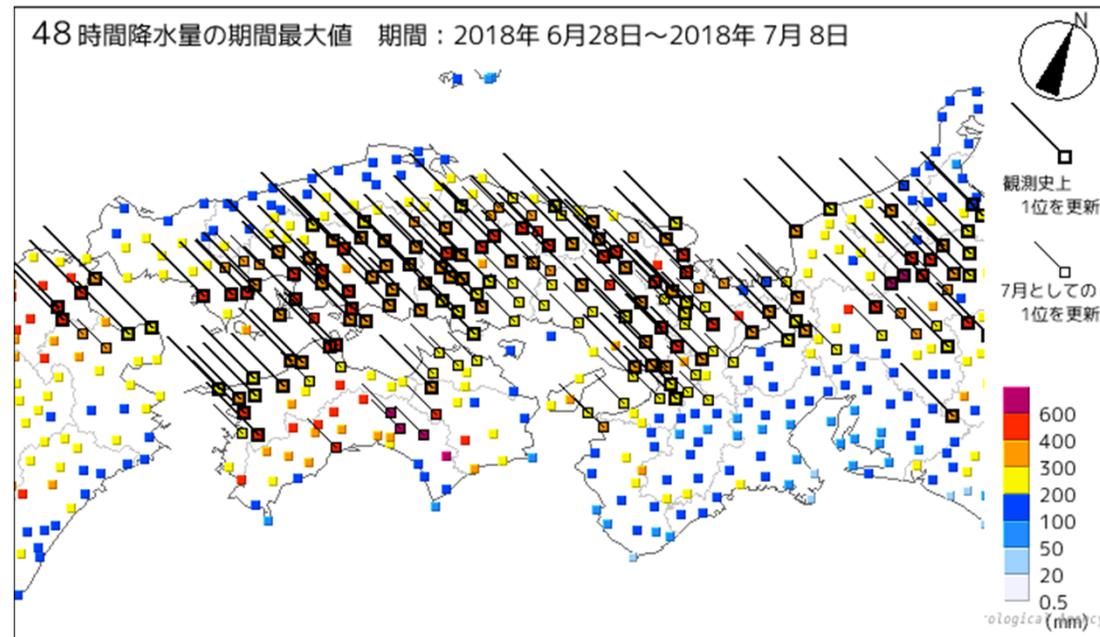


「平成30年7月豪雨」の降水分布（期間：6月28日から7月8日）

「平成30年7月豪雨」の大雨の特徴

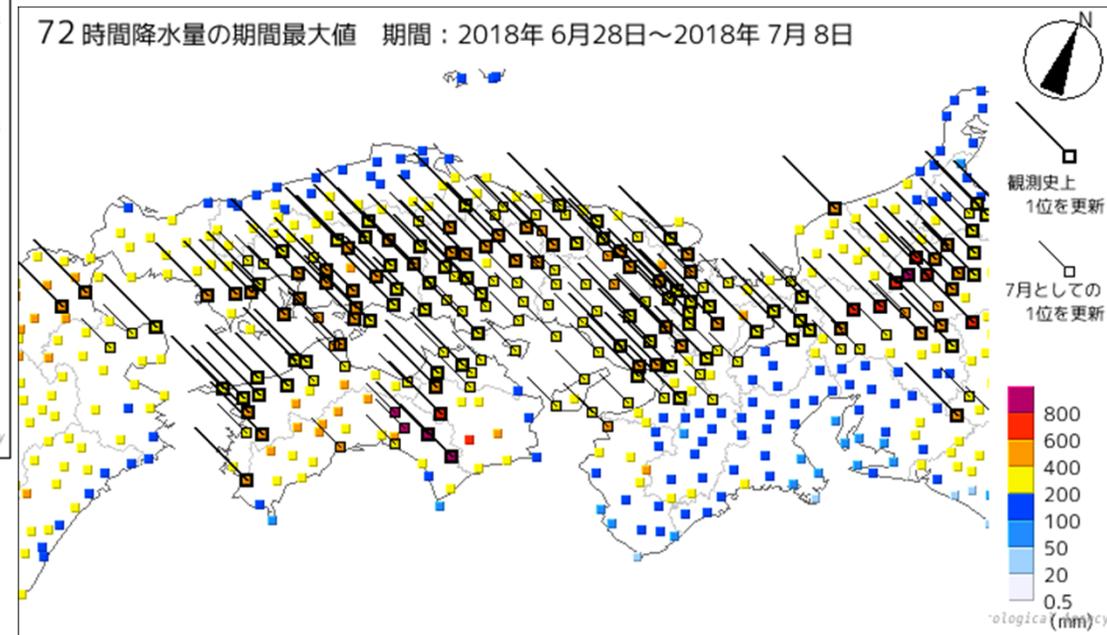
これまでの梅雨前線や台風による大雨事例と比べて、今回の豪雨では、特に2日間（48時間）から3日間（72時間）の降水量が記録的に多い地域が、普段雨の少ない中国・四国地方の瀬戸内海側も含め、西日本から東海地方を中心に広い範囲に広がっていたことが大きな特徴である。

48時間降水量の期間最大値 期間：2018年6月28日～2018年7月8日



観測史上1位を更新した地点数：124地点
7月としての1位を更新した地点数：239地点

72時間降水量の期間最大値 期間：2018年6月28日～2018年7月8日



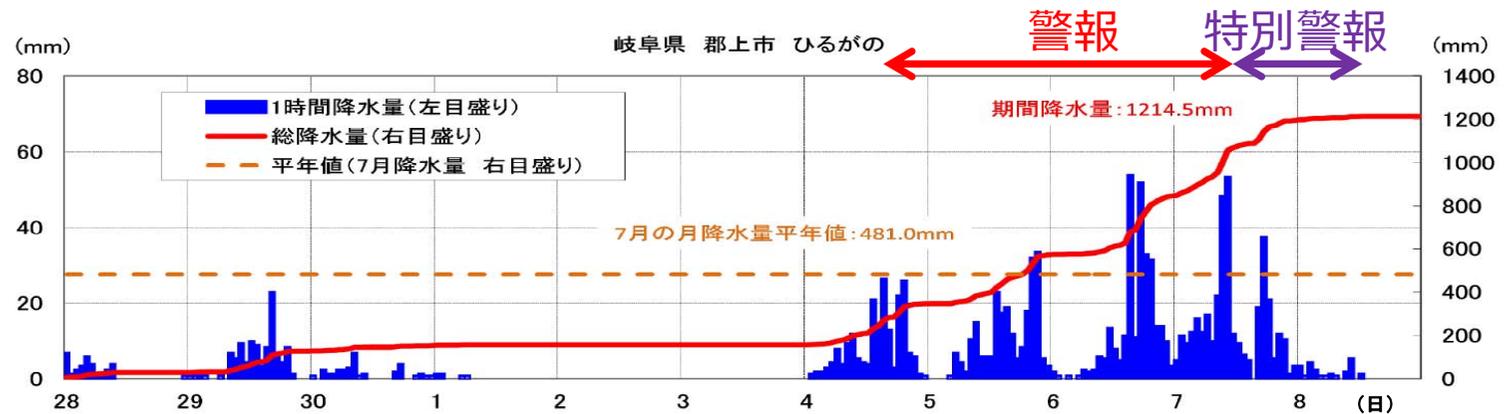
観測史上1位を更新した地点数：122地点
7月としての1位を更新した地点数：264地点

6月28日から7月8日までに観測された西日本から東海地方にかけての48・72時間降水量の期間最大値

「平成30年7月豪雨」の大雨の特徴

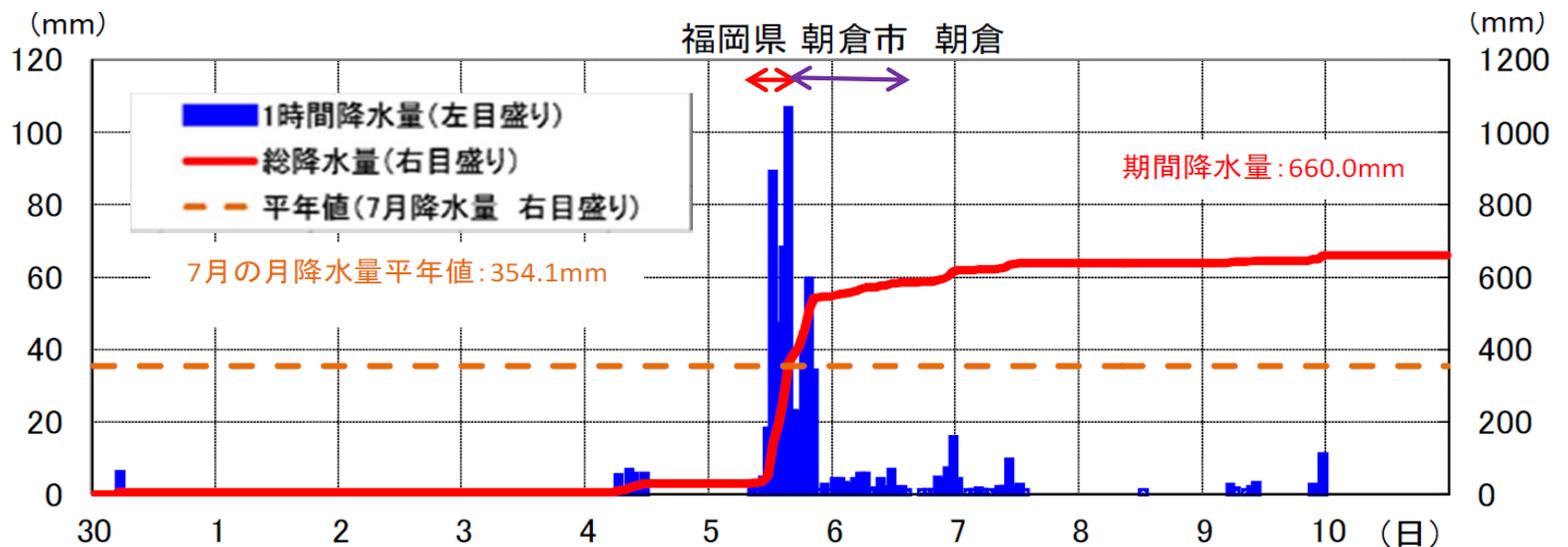
昨年の九州北部豪雨と比較すると、今回の豪雨では長時間にわたり雨が降り続いたことがわかります。

平成30年
6月28日0時～
7月8日24時



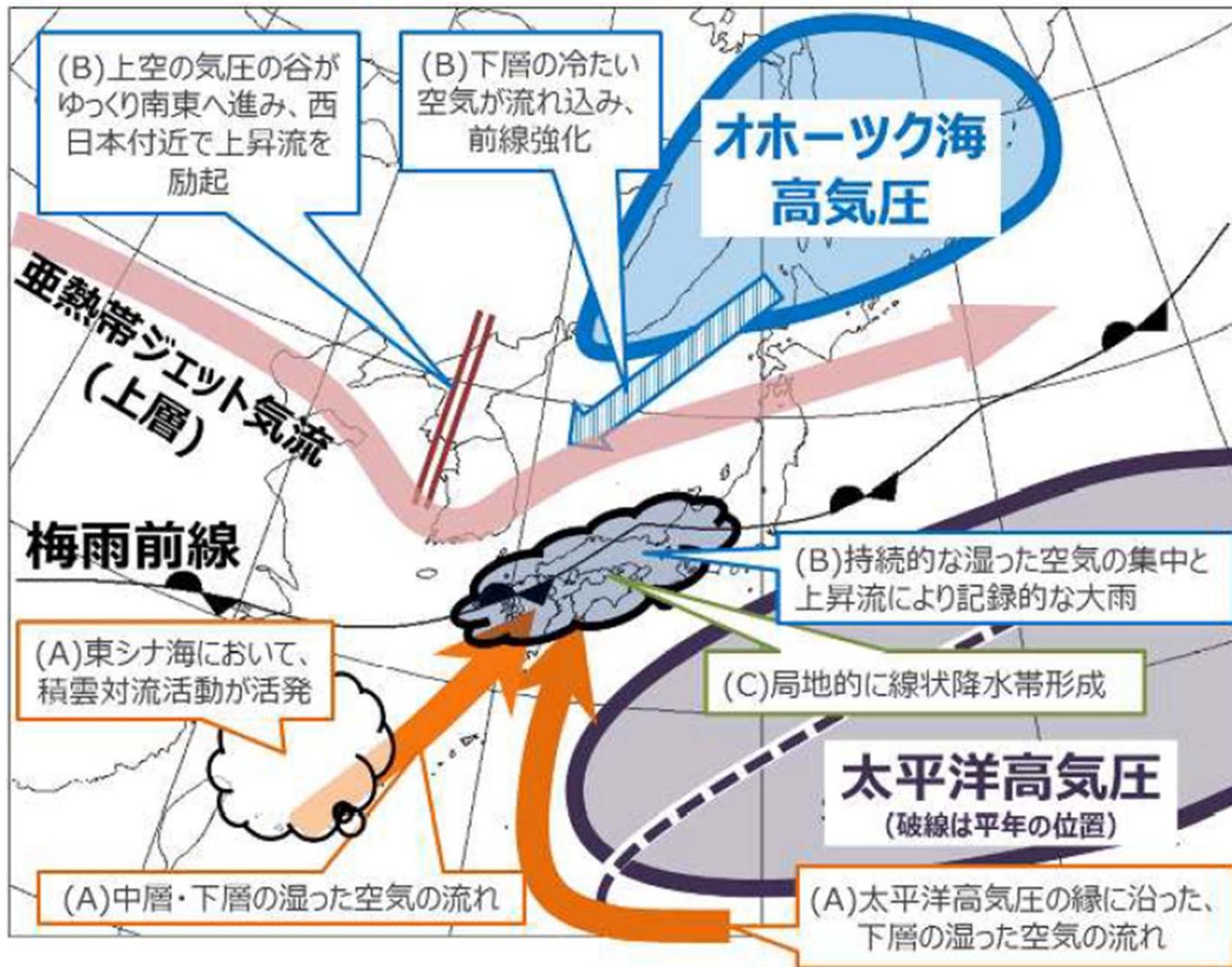
平成29年7月
九州北部豪雨

平成29年
6月30日0時～
7月10日24時



「平成30年7月豪雨」の大雨の発生要因

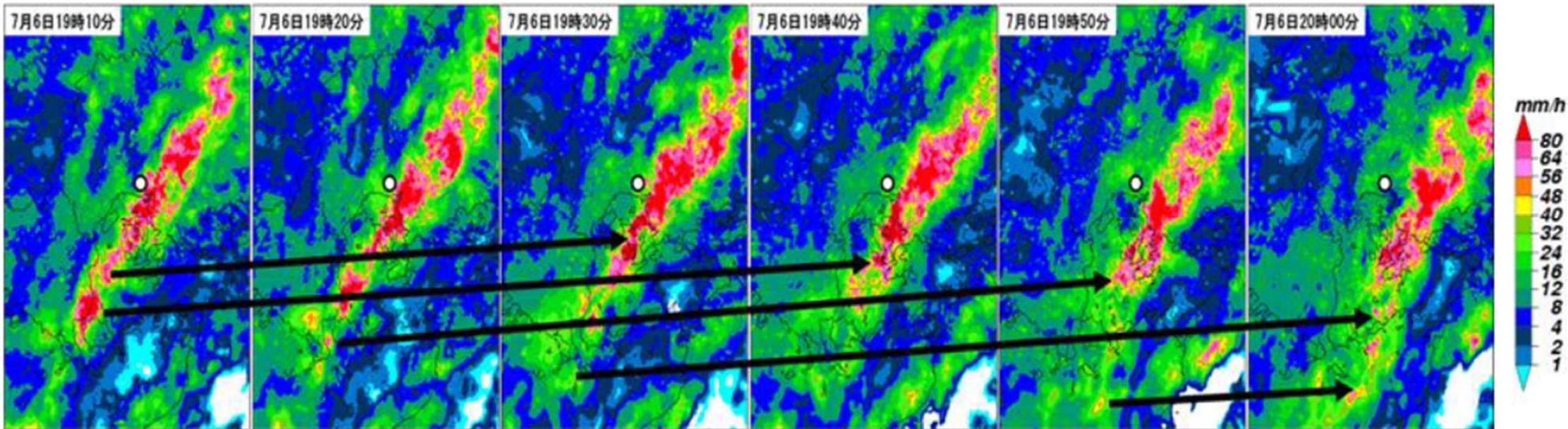
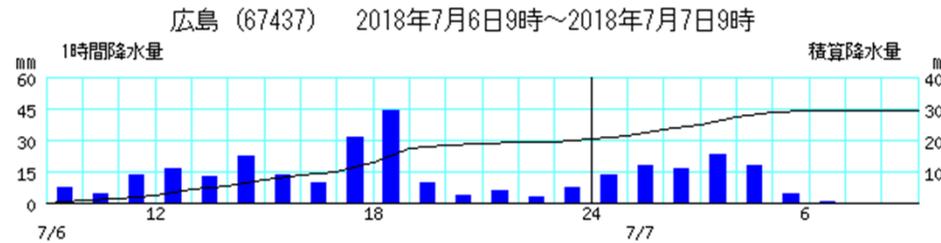
- (A) 多量の水蒸気を含む2つの気流が西日本付近で持続的に合流
- (B) 梅雨前線の停滞・強化などによる持続的な上昇流の形成
- (C) 局地的な線状降水帯の形成



7月5日から8日の記録的な大雨の気象要因

局地的な線状降水帯の形成

広島県では、7月6日夕方から夜にかけて、線状降水帯が形成されていた。この線状降水帯は、形成過程としてバックビルディング型の特徴を持っていた。



広島県で発生した線状降水帯。7月6日19時10分~20時00分の実況の高解像度降水ナウキャストによる降水強度分布(ミリ/時)の10分毎の時系列。矢印は線状降水帯を形成する積乱雲の動きを示す。白丸は広島的位置を示す。

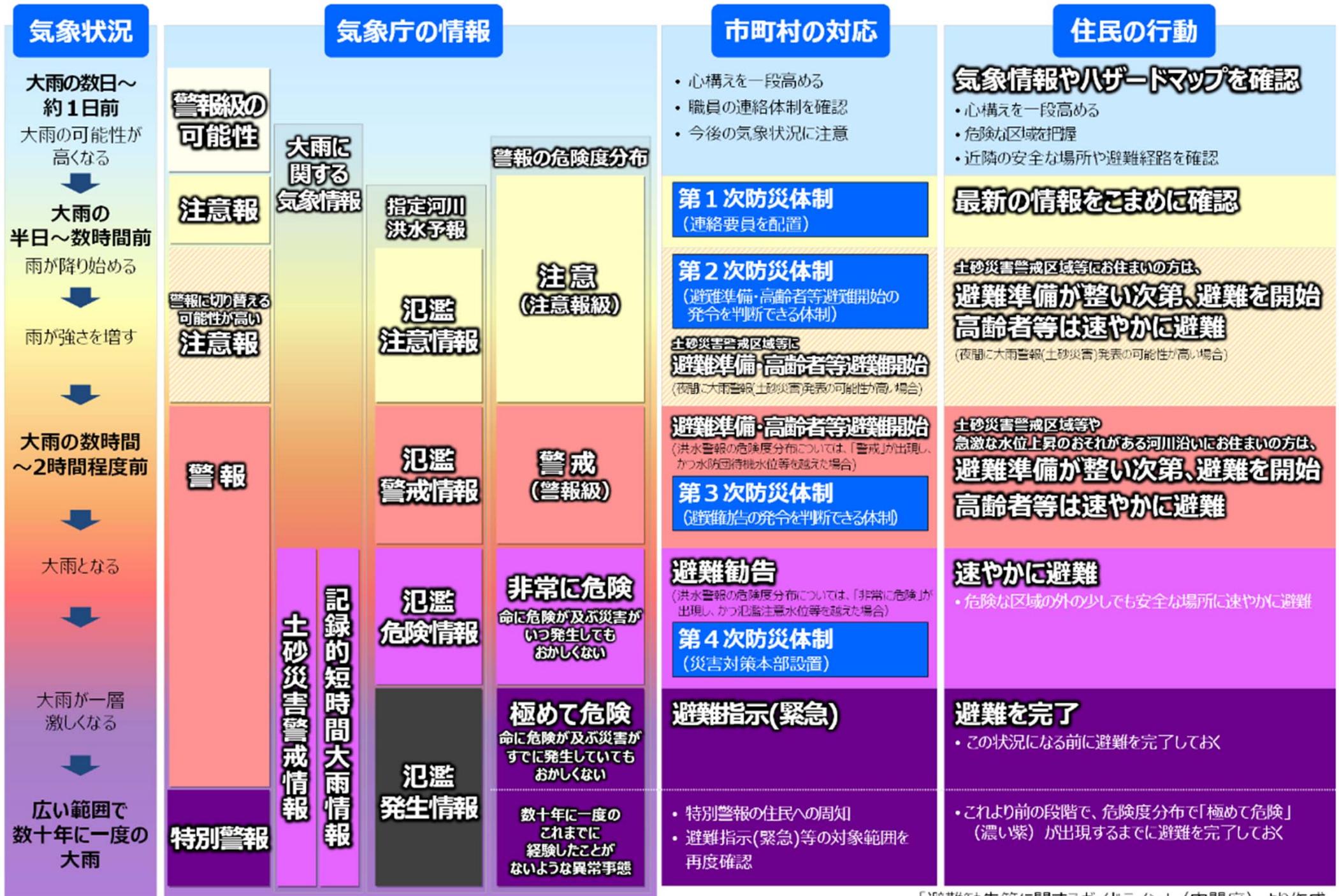
<気象庁における線状降水帯の定義>

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をともなう雨域

この大雨について、岐阜県、京都府、兵庫県、岡山県、鳥取県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県の1府10県に特別警報を発表し、最大限の警戒を呼びかけた。

＜主な府県（特別警報を発表した府県）の警報等の発表・解除時刻＞

都道府県	大雨警報発表時刻	土砂災害警戒情報発表時刻	大雨特別警報発表時刻	大雨特別警報解除時刻
岐阜県	4日 11時40分	5日 20時10分	7日 12時50分	8日 14時10分
京都府	5日 01時49分	5日 05時00分	6日 22時50分	7日 21時20分
兵庫県	5日 03時35分	5日 03時55分	6日 22時50分	7日 18時10分
岡山県	5日 14時19分	5日 17時00分	6日 19時39分	7日 15時10分
広島県	5日 08時08分	6日 14時05分	6日 19時40分	7日 10時50分
鳥取県	5日 10時50分	6日 15時30分	6日 19時40分	7日 13時10分
愛媛県	5日 01時22分	6日 03時05分	8日 05時50分	8日 14時50分
高知県	5日 01時48分	5日 08時15分	8日 05時50分	8日 14時50分
福岡県	5日 12時20分	5日 18時00分	6日 17時10分	7日 08時10分
佐賀県	5日 12時08分	5日 17時55分	6日 17時10分	7日 08時10分
長崎県	5日 15時17分	5日 17時12分	6日 17時10分	7日 08時10分



- 長崎、佐賀、岡山、広島、鳥取、兵庫、岐阜、愛媛、高知県では初めて。福岡県・京都府では2回目
- 四国地方としては初めて。九州北部地方、中国地方、近畿地方、東海地方としては2回目

事例	回数	要因種別	気象現象等
1	①	雨	平成25年台風第18号(福井県、滋賀県、京都府)
2	②	台風等	平成26年台風第8号(沖縄県)
	③	雨	平成26年台風第8号(沖縄県)
3	④	雨	平成26年台風第11号(三重県)
4	⑤	雨	平成26年9月北海道の大雨(北海道)
5	⑥	雨	平成27年9月関東・東北豪雨(栃木県、茨城県、宮城県)
6	⑦	台風等	平成28年台風第18号(沖縄県)
7	⑧	雨	平成29年7月梅雨前線の大雨(島根県)
	⑨	雨	平成29年7月九州北部豪雨(福岡県、大分県)
8	⑩	雨	平成30年7月豪雨(福岡県・佐賀県・長崎県・岡山県・広島県・鳥取県・兵庫県・京都府・岐阜県・愛媛県・高知県)



おわり

ご清聴ありがとうございました